ようこそ、本校ホームページにお越しくださいました。

明けましておめでとうございます。昨年度中、本校教育に対しまして皆さまには大変お世話になりましたこと、厚く御礼申し上げます。本年も学校経営、学校運営に一層の努力をして参ります。どうぞ、相も変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、「教育」とは、教えることと、育む（育てる）ことから成り立っています。とかく学校教育では知識偏重が指摘されます。上級学校への進学をはじめ、就職試験、国家資格や各種技能検定取得等のためには、必要となる知識の習得は不可欠ですが、近い将来、社会の一員として社会に貢献できる人材に育てるためには、当然のことながら「徳」、「体」の要素も、磨き鍛える必要があることは言うまでもありません。

先月、とある有名な観光地に旅行し、宿泊したホテルのエレベーターでのことです。乗り合わせたエレベーターは乗客でほぼ一杯のところに、さらにもう１人。最後の乗客は扉に挟まれそうになりました。また同じ日、途中乗り合わせた客は、乗り込むなりすぐさま、無言で他人の肩越しに思いっきり腕を伸ばし、希望する階のボタンを押しました。いずれも、ちょうど人混みの中にいた私は少し考えてしまいました。

普通？なら、ドアーボタンに一番近い人が、扉開閉のボタンをその都度押すことが、暗に求められたり、期待されたり、自ら担うことになると思います。或いは、すし詰めの場合、「すみません、○○階をお願いします。」と言うか、空間ができた時に、自分で希望階のボタンを押すのではと思います。このことについては、何らルールがあるわけでなく、マナーとして言及されるものでもないと思いますが、常日頃から他人の行動を意識することで、私たちが自然と身につけていくもののようにも思えます。一方、幼い子どもが、ハサミを渡す時、刃先が相手に向かないようにして渡すのを見ると、しつけがきちんと身についているんだなと感心するものです。また、スリッパについては、自分や他人が次に履きやすいように、きちんとそろえて後ろ向きに脱ぐことなどは、他人の行いを見て、なるほどそうかとヒントを得、マナーとして身につけていくものかもしれません。しかし、身についていない場合は、気がついた人が、敢えて指摘し、教示することも必要な場合があります。

ある観光客で賑わう京都のお寺の住職さんが、枯山水の庭園に降りて写真撮影する外国人に対して、それを禁止する表示をしているにもかかわらず、守れない人々がいることの対処の仕方について、テレビのインタビューで答えておられました。住職さんは、「注意したり、叱るのは簡単ですが、それでは相手の心証を害することになるでしょ。本当の**『おもてなし』**は、そっと気づかせてあげることなんです。」と答えておいでになりました。おもてなしとは、自分（たち）の枠を超えて相手に対する気配りをする、という意味なんですね。「さすが！」と感心した次第です。

これぐらいは、と見逃したいことでも、状況にもよりますが、社会人になってからの修正では遅いことがあると思います。過剰に気遣いをするのも考えものですが、この日本人の「おもてなし」の精神が美徳であるとすれば、グローバル化が進んでいるこの時代、気づいた者が、世界にそれこそそっと発信することも今後必要になってくるのでは、と思います。

新見高校で送る３年間においては、部活動や学校行事を通して、また、地域での各種行事に参加して、いわゆる道徳と体力を含めた人間力と同時に相手を思いやる気持ちも、学力とともに身につけてほしいものです。

今後、学校教育において大切なのは、何を学んだかではなくて、何を身につけたかだと思います。社会に出て即役立つ人材になるための必要最小限のこと、必要不可欠な土台を本校教育で培えるよう教職員一同努力して参る所存です。これからの新見高校にご期待とご支援を賜れれば幸いです。

末尾になりましたが、本年の皆々様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成２８年１月４日

岡山県立新見高等学校長　　石田　均